

---

# 【氷の瞳とただの夢想】

鎌堂成久

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

【氷の瞳とただの夢想】

### 【Nコード】

N7724A

### 【作者名】

鎌堂成久

### 【あらすじ】

水使いの夢の話。相手は空気だけれども自分の　その夢が世界を.....。

夕立雲が空を蔽ってしまった。それが人為的なことだとは誰一人  
思わなかったろう。

「あー、振りそうだね。早く帰ろっ！」

悠は誰にともなく、言葉を吐いた。

「つつても、私はまだ帰れないか……」

それから悠がその手に提げていた袋から500mlのペットボト  
ルを取り出した。それはごく普通の飲料水。

「さあ、そろそろ出ておいでよ」

セーラー服姿の悠のスカートがヒラリと翻る。

「なーんだ、そんな簡単に？ 君くらいなら水滴で充分じゃない」

不敵に悠は笑う。周りには一人として人間の影は見えない。相手  
は不透明の空気だから。

「空気なんて水に溶けてしまっただよ？ イコール、私に取り込ま  
れるのよ」

すると新しいペットボトルの蓋を回し、あけた。

『キ、貴様！ ワタシニ何ヲシヨウトシテイルノダ。ヤメロ！』

空気の支配者が声を上げる。普通の人間にはその声はただの風に過ぎないだろう。だが、感情までもが籠もるその声は突風となって世界に吹き荒れた。

「人が死んじやうよ……」

悠のその瞳は冷たい。だが、先ほどの突風で身体のおちこちには擦り傷や切り傷が残っている。

『フン、ソンナコトハドウデモヨイ！ 何故、ワタシヲ貴様ハ消ソウトスル?!』

「可哀想つ。まあ、いいや。ただ、私はこの世を終わらせたいだけなんだよねえ」

空気の支配者が怒って、竜巻がところどころで起きている。

「じゃあ、逝っちまえ！」

悠が一滴、右の人差し指にペットボトルの水を垂らした。そしてそれは膨張し、その世を包み込んでしまった。

それは、水が世界を蔽ったときだ。

厭っ！

いつの間にか、悠はベッドにいた。

「あ、夢だ。なんで？　なんで私が、そんなこと……」

悠は水を操れる。だが、世界を破壊しようとは思っていない。

大好きなこの世界が……何故。

だが、それも一瞬のうちまた意識が深い眠りへと堕ちてしまった。

悠の部屋の窓の外には水滴が浮遊していた。

私は、破壊者ダ。

深層心理で悠が呟いた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7724a/>

---

【氷の瞳とただの夢想】

2011年1月8日20時08分発行